

TEMPUS テンプレス

2007年(平成19年) **29**号



も く じ

- 堺市博物館「貝塚願泉寺と泉州堺」開催のお知らせ
- 展示会のお知らせ(平成19年度下半期)
- 映像コーナー設置のお知らせ
- 企画展「絵像に見る願泉寺ト半家の歴代」を開催しました
- 「祭ごと・政事りごと・まつりごと—寺院と役所—」開催
- 貝塚寺内町遺跡の調査
- 古文書をひも解く
- 古文書講座
- 貝塚御坊願泉寺平成大修復定期見学会のお知らせ



堺市博物館平成19年度秋季特別展

がんせんじ

「貝塚願泉寺と泉州堺」開催のお知らせ!

平成19年9月15日(土)から11月4日(日)にかけて、堺市博物館において、願泉寺(通称「ぼっかんさん」)および貝塚寺内を紹介する特別展が開催されます。貝塚市および貝塚市教育委員会では、本展示会を後援いたします。

本展示会では、貝塚寺内の成立から寛文3(1663)年の願泉寺本堂再建までの歴史のほか、堺と貝塚の歴史文化の交流をさまざまな展示資料を通して紹介いたします。また、平成19年8月7日(火)から9月30日(日)にかけては、スポット展示「貝塚願泉寺の平成大修理」と題して、現在進められている願泉寺本堂の修理事業についての展示が開催されます。



●特別展「貝塚願泉寺と泉州堺」

会 期 平成19年9月15日(土)～11月4日(日)

開館時間 午前9時30分～午後5時15分
(入館は午後4時30分まで)

休 館 日 月曜日(ただし祝・休日は開館)、9月25日(火)

観 覧 料 一般500円、高大生300円、小中生50円

関連事業 ①講演会10月28日(日)午後2時～午後3時45分
大阪歴史博物館 大澤研一氏

「貝塚願泉寺と泉州の真宗寺院」(堺市博物館地階視聴覚室)

※定員100人、先着順、入館料が必要です。

②館外学習会 10月8日(月・祝)

特別展を観覧したのち堺旧市内(寺町周辺など)を見学

展示解説 特別展の展示品を解説(45分程度) ※直接会場へ、入館料が必要です。

①9月16日(日)午後2時～ ②9月22日(土)午後2時～

主 催 堺市博物館

後 援 大阪府教育委員会・貝塚市・貝塚市教育委員会／特別協力 願泉寺・貝塚寺内町歴史研究会



堺市博物館案内図

●スポット展示「貝塚願泉寺の平成大修理」

会 期 平成19年8月7日(火)～9月30日(日)

開館時間 午前9時30分～午後5時15分(入館は午後4時30分まで)

休 館 日 月曜日(ただし祝・休日は開館)、9月25日(火)

会 場 当館1階展示場 常設展示場中央のスポット展示コーナー

観 覧 料 ①8月7日(火)～9月14日(金) 常設展示・企画展と共通
一般200円、高大生100円、小中生50円

②9月15日(土)～9月30日(日) 常設展示、特別展と共通
一般500円、高大生300円、小中生50円



本堂手挟「天人」

〔問合せ先〕 堺市博物館 TEL 072-245-6201

〒590-0802 堺市堺区百舌鳥夕雲町2丁 大仙公園内

貝塚市郷土資料展示室

展示会のお知らせ(平成19年度下半期)

貝塚市郷土資料展示室では、下記のとおり、平成19年度下半期も郷土貝塚に関する展示会を予定しています。(展示の会期・内容につきましては、変更となる場合があります。)

①特別展「米穀肥料商廣海家と泉南地域」

会 期 平成19年9月1日(土)～10月21日(日)

内 容 平成18年度貝塚市指定文化財廣海家文書の紹介を中心に、幕末から近代にかけて貝塚寺内の諸色問屋として活躍した廣海家の歴史を紹介します。

②貝塚市の指定文化財展 第3期「中世の村のくらしと村人たちのおはなし」

会 期 平成19年11月24日(土)～平成20年1月27日(日)

内 容 第3期の展示では、橋本遺跡出土の副葬品類、土生遺跡の副葬品(平成18年度貝塚市指定文化財)のほか、集落から出土した日常品を展示し、中世の人々の暮らしぶりなどを紹介します。

③特別展2「貝塚市内の近代建築」

会 期 平成20年2月2日(土)～3月23日(日)

内 容 文化庁の近代和風建築調査、近代化遺産調査、今年度からはじまった市内の建造物調査などの成果をもとに、大規模工場や公共施設など市内の近代建築をもとに貝塚市の近代化の過程を紹介します。

※11月1日(木)～11日(日)の期間は市民図書館「手づくり紙しばい大会」作品展示を開催。

※特別展期間中の平成20年2月21日(木)～3月4日(火)は市民図書館の図書整理休館のため休室。

ふるさと知っとこ!館(貝塚市歴史展示室)

◆映像コーナー設置のお知らせ◆

ふるさと知っとこ!館では、常設展「ニチボー貝塚バレーボールチームの軌跡」を開催中の展示室B内に、バレーボール関係の映像を上映する映像コーナーを設置しました。現在、下記の映像を上映していますので、観覧希望の方はぜひふるさと知っとこ!館へお越しください。なお、映像コーナーの放映資料については、今後も随時増やしていく予定です。

<映像コーナー放映資料一覧>

題 名	撮影年月日	時間
1. 新名所が仲間入り!市民庭園と歴史展示館	(平成17年11月1日)	約15分
2. 「東洋の魔女」ニチボウ貝塚	(平成12年11月7日)	約15分
3. 「ハードトレーニング」(ユニチカ(株)作成映画)	(昭和37年10月)	約30分
4. 「栄光への道」(ユニチカ(株)作成映画)	(昭和40年頃)	約50分
5. 「世界バレーに向けて」全日本女子バレー公開練習	(平成18年9月15日)	約15分
6. バレーボール公開練習「めざせアテネ!全日本女子」	(平成16年5月4日)	約15分
7. バレーボール全日本女子エキシビジョンゲーム	(平成16年6月29日)	約15分
8. 全国中学バレーボール大会	(平成17年12月25日)	約15分

※1、2、5～8はJ-COMりんくう(ch9)にて放映された映像です。また、3、4は「東洋の魔女」ニチボー貝塚女子バレーボールチームの記録映像です。



貝塚市郷土資料展示室

企画展「ぼくほん絵像に見る願泉寺ト半家の歴代」を開催しました

本展は、平成19年5月26日(土)から7月1日(日)にかけて開催しました。

今回の企画展では、現在平成大修復が行われている貝塚御坊願泉寺の住職ト半家の歴代絵像を紹介しました。ト半家は、願泉寺の住職であるとともに、江戸時代の二代了閑(りょうかん)から十一代了諦(りょうたい)までは貝塚寺内(じない)の領主でもあり、その歴代の絵像が現存します。今回の企画展では、絵像を中心に、徳川家歴代からの黒印状・朱印状、ト半家の家系図など関連資料を展示し、江戸時代のト半家歴代について紹介しました。会期中658名の方々に来室いただきました。



貝塚市の指定文化財展 第2期

まつり まつ 「祭ごと・政事りごと・まつりごと—寺院と役所—」開催!

本展は平成19年7月7日(土)から8月26日(日)にかけて開催しています。

飛鳥時代から平安時代、貝塚市内には秦(はた)氏の氏寺である秦寺や近木(こぎ)郷に関係した役所などの公共施設が建設されました。いずれも政治と祭祀という「まつりごと」を行うもので、こうした施設が建設されたことから、貝塚市域が古代の和泉地域のなかでも重要視されていたことを示しています。

「貝塚市の指定文化財展」第2期の展示では、秦廃寺出土の瓦や加治・神前・畠中遺跡出土の井戸出土品など、平成9年度および平成18年度に指定した貝塚市指定文化財を中心に、古代における政祭のまつりごとの様子について紹介しています。

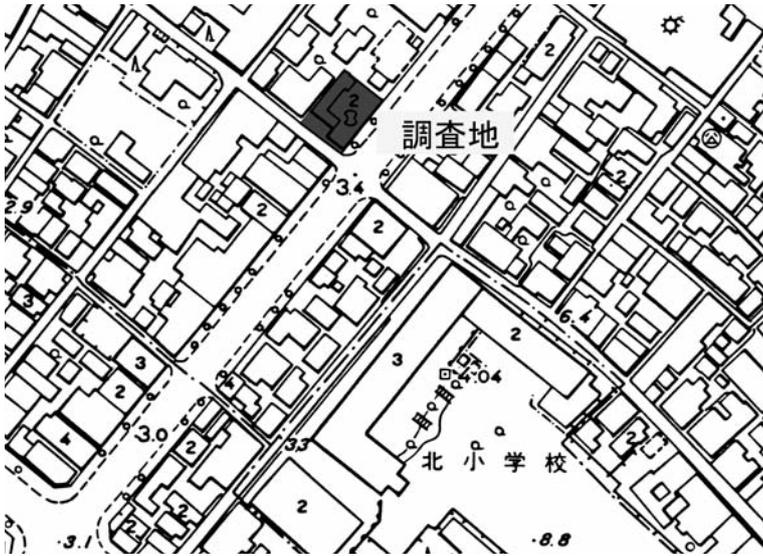


秦廃寺出土鬼瓦



加治・神前・畠中遺跡で発見した井戸の様子

貝塚寺内町遺跡の調査



平成18年10月に貝塚寺内町遺跡の発掘調査を実施しました。場所は、北町の紀州街道に面した海岸段丘の下部の願泉寺に近い地点で、中世期寺内町成立当初から集落があったと推定される地域です。

調査では、海岸部に位置するため地盤は砂であることがわかりました。安定しない地盤のため、他から土や粘土を運び、盛土・整地を行って宅地にし、五輪塔や石造物を転用して基礎石にしていました。また、埋甕(うめがめ)3基、カマド1基を発見しました。埋甕は、地面を掘りく

ぼめた半地下の場所に、16世紀後半から17世紀初頭期の備前焼(びぜんやき)の大甕(おおがめ)を埋めて設置しており、その一つには「二石入」(にこくいり)、「呑」(のむ)と線刻がされていました。埋甕の上層からは、焼けて赤くなった瓦や炭・灰を含んだ焼土層があり、建物が火災に遭い、焼けた瓦や焼土などを埋甕のあった半地下部分にまとめて廃棄し、整地していることがわかりました。

調査地には、寺内町成立当時、瓦葺の建物があり、埋甕に貯蔵した酒や油などの商いをした商家があったのかもしれませんが。



カマド(手前)、埋甕(右奥)



埋甕



(石「こく」は液体等の容量の単位で一石は約180ℓ)

古文書をひも解く

庄屋日記から見えること

平成13年～17年度にかけて、本市畠中に所在する旧家要家の文化財について広く調査が進められました。様々な分野のうち古文書については約4万点の整理を実施しています。その中から「日記」について紹介していきます。

要家（かなめけ）の歴史は、天正13（1585）年秀吉の根来攻めの際、畠中城に立て籠もった、近木庄（こぎのしょう）の豪族神前要人宗行（こうざきかなめんどむねゆき）が祖先であると伝えられています。その後戦乱が終わり、江戸時代に入ってから、当主源太夫（代々襲名）が、畠中村・神前村の庄屋をつとめ、岸和田藩から「七人庄屋」（庄屋の中でも特に有力な7家が岸和田藩では重用され、他で言うところの「大庄屋」に類する）に任じられ、岸和田城内の郷会所へ1か月に2～3日程度出勤し、村々からの願い出の提出や藩からの触れの伝達などをはじめ、藩領内村々の利害を調整する役割を担っていました。また、藩領内村々の争いごとを仲裁する了簡人（りょうけん）に任せられることや、庄屋不在の村を一時的に治める附庄屋（つけじょうや）を兼務することもありました。



庄屋日記

「日記」は、そうした立場に置かれた要家の当主が、江戸時代中期にあたる宝暦12（1762）年に書き始め、天保12（1841）年までの80年間書き続けたものです。途中、享和3（1803）年から文化9（1812）年までの10年分の欠落はあるものの、横帳で36冊が残されています。この内容は個人の日記ではなく、家日記あるいは公用日記として書き留められているものです。毎日の記事は、箇条書きのスタイルで書かれており、冒頭はその日の下男・下女の仕事について、おおむね農作業や家事に関する記事が書かれています。次いで、家族の様子やできごとが続きます。その後、当主のその日の行動について記録されています。例えば、岸和田へ出向き、家老から触れをもらったことや、近隣の庄屋と酒をくみかわしながら話し合いをしたことなどが書かれています。岸和田藩の動きもここからわかります。

例えば、岸和田藩では文政3（1820）年から藩政改革に着手していますが、その動向は「日記」の記述にも多く登場します。藩の借財整理をはじめ、村々が抱えている借財の調査を進めている様子、それらのために岸和田城下へ出向き寄り合いをおこなっていることなどが書かれています。その内容の一部はこれまで岸和田藩の歴史として、他の資料をもとにすでに分析されているところです。しかし、この「日記」は時間経過を追いかけることができるという点、事細かなことまで記録されているという点で、岸和田藩の研究をさらに掘り下げていく上で、重要な史料として位置づけられます。



古文書講座

「岸和田城天守閣に雷が落ちたー庄屋日記に見る岸和田藩事件簿①ー」

平成19年5月12日(土)から5回にわたり、「岸和田城天守閣に雷が落ちたー庄屋日記に見る岸和田藩事件簿①ー」と題して古文書講座を開催しました。

文政10(1827)年11月20日の早朝、岸和田城天守閣を雷が襲いました。領内からはこの一大事にたくさんの人びとが駆けつけましたが、天守閣は焼失してしまいます。その後の人々の動向などに注目し、この事件の顛末について、要家文書の「日記」をテキストに読み解いていきました。



講座風景

領内から人々が駆けつけるなか、天守閣は残らず燃え尽き、一部の櫓(やぐら)が焼失しました。この時、畠中村からは30人がにぎりめしを携えて駆けつけています。畠中村庄屋で七人庄屋の要源太夫(「日記」の筆者)は、その日のうちに、この火事見舞いに家老をはじめ岸和田藩の役人らを訪問しています。翌21日には焼け跡の片付けが進められました。この日は畠中村から10人が片付けに出向いています。翌々22日には領内から合わせて240人が片付けにやってきました。岸和田藩にゆかりの大坂商人などが火事見舞いのために訪れています。これらの事柄が、「日記」から明らかになりました。

参加者の方々からは、「雷が落ちた時の様子や人々のくらしぶりが思いうかびました。」といった感想や「お城が被害を受けると、総勢で直しに出るけど、民家などの時は何かの支援はあったのだろうか。」といった質問が寄せられました。また、今年秋と来年の年明けに予定している古文書講座でも、引き続きこの「日記」を読んでいますので、みなさま奮ってご参加ください。

◆次回(第25回) 古文書講座開催のお知らせ

「泉州の人びと、物価引き下げを求めるー庄屋日記に見る岸和田藩事件簿②ー」

文政3(1820)年11月、米価などの下落がおこったため、肥料である干鰯(ほしか)・油かすなどの値下げを求め、堺奉行所に訴え出ようと、堺の寺に泉州から村々の代表が寄り合いました。さまざまな利害が交錯するなか、この訴えはどのように進んでいくのでしょうか?当時の庄屋日記などをテキストに読み解いていきます。

日 時:平成19年10月13日ー初心者講習、10月20日ー第1回、10月27日ー第2回、
11月17日ー第3回、11月24日ー第4回、いずれも土曜日午後2時~4時30分

場 所:貝塚市民図書館2階視聴覚室

申 込:必要事項(住所、氏名、電話番号)を明記の上、はがき・E-mail・FAX・
電話いずれかの方法で、下記申込み連絡先まで事前にお願ひします。

申込み連絡先

〒597-8585 貝塚市畠中1-17-1 貝塚市教育委員会 社会教育課

TEL 072(433)7126 / FAX 072(433)7107

Email shakaikyoiku@city.kaizuka.lg.jp

貝塚御坊願泉寺 平成大修復 定期見学会のお知らせ

重要文化財願泉寺本堂他5棟半解体修理事業は、本堂の半解体および基壇の発掘調査も平成18年中に終了し、現在本堂の組み上げ作業が進められています。願泉寺では、そのようすを見学いただく機会として、毎月第3日曜日に定期見学会を開催しています。7月は夏祭り等のためお休みいたしますが、8月以降の予定は以下の通りです。当日は本堂修復の現状を自由に見学いただけますので、ご興味・ご関心のある方はぜひご参加ください。



開催日 平成19年8月19日(日)、9月16日(日)、10月21日(日)
時間 午前10時～午後4時(時間内の見学は自由)

※見学会は、7月と11月を除いて毎月開催されています。また、見学会当日は午前10時30分と午後1時30分からの1日2回、担当者による説明がおこなわれます。



願泉寺本堂の修理のようす (平成19年6月撮影)

※耐震補強工事がすすめられており耐震補強の金具(写真左)の試作品を設置し、耐震試験を行っています。また、屋根前面の化粧裏板を張る作業などが進められています。骨格部分の木材は大半はそのまま使用されますが、一部新しい木材に取り替えられているようすが掲載写真からもわかります。

表紙の写真

平成19年5月15日付で、「ふるさと 知っとこ! 館」は「貝塚市歴史展示館(旧ユニチカ株式会社貝塚工場事務所)」の名称で国有有形文化財に登録されました。

また、ユニチカ(株)様より、京セラドームで展示していたバレーボール関係の写真パネル等の寄贈を受け展示の内容を充実させました。

かいつか文化財だよりテンプス29号



平成19年7月31日発行

貝塚市教育委員会

〒597-8585 貝塚市島中1丁目17-1

Tel (072) 433-7126 Fax (072) 433-7107

Email: shakaikyoiku@city.kaizuka.lg.jp

印刷 (株)和歌山印刷所

※テンプスとはラテン語で「時」を意味します。

年4回発行: 各1,000部

印刷単価: 67.20円